

東海地域の水稻の直播栽培をめぐる事情

令和8年6月

農林水産省

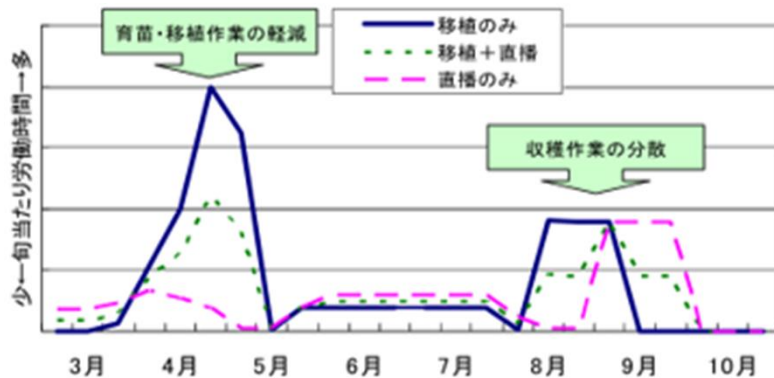
東海農政局

水稲直播栽培について

- 労働負担が大きい育苗・移植作業(田植え)を行わないことにより、軽労化が可能となる技術として、湛水直播及び乾田直播技術が確立されている。
- 近年は、これに加え、栽培期間中に湛水しない節水型乾田直播技術が登場している。
- 移植栽培と比較して収量の安定性が劣ることから、これまで取組農業者は限られていたが、労働力不足が顕在化する中で、導入面積は徐々に増加している。
- 大規模生産者においては、春期の作業量が作付規模を決定する主要因の一つとなっており、将来的な農業者の減少や更なる経営規模拡大が進む中で、直播栽培は重要な技術となっている。

【移植栽培との必要労働力の比較】

- 移植栽培のみの場合と比較し、作業ピーク時の必要労働力が大きく減少。
- 移植栽培と適切に組み合わせることで、規模拡大と安定的な収量を確保。



【直播技術の種類】

湛水直播

- ・代かき後の湛水状態で播種する栽培技術。
- ・作業負担の大きい田植えが不要となるため、省力化が図られる。
- ・カルパーコーティング湛水土壌中直播、鉄コーティング直播等の方式がある。
- ・出芽促進を目的とした種もみの被覆等の処理が必要。

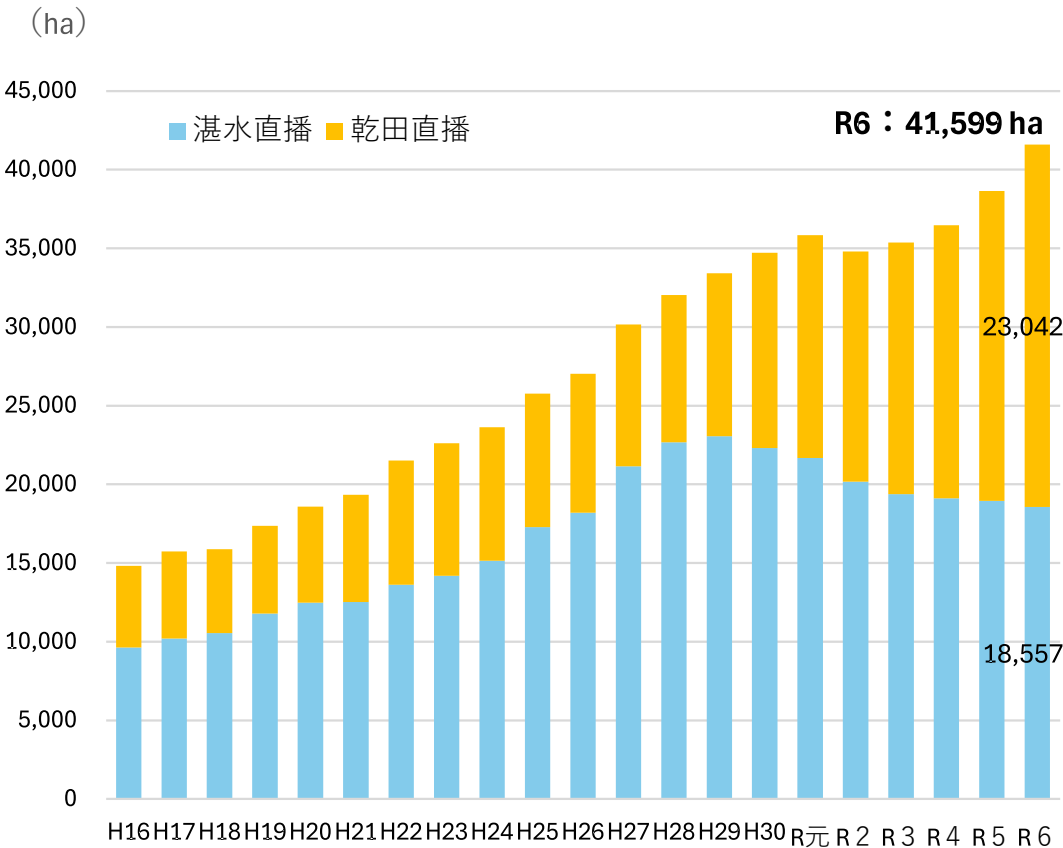
乾田直播

- ・畑状態で播種し、一定期間後に水を張る栽培技術。
- ・田植えに加え、育苗や代かきも不要となるため、湛水直播より更に省力化。
- ・不耕起V溝直播栽培、スリップローラーシーダー等を用いた直播、畝立て乾田直播等の方式がある。
- ・入水前の乾田期間における除草が重要。
- ・新たな技術として、畑状態で播種し、その後も水を張らずに省力的に栽培する節水型乾田直播がある。現時点では、収量が不安定なため実証が行われている段階。

全国の水稲直播栽培の普及状況

- 水稲直播栽培面積は、全国的に規模拡大を図る担い手を中心とした取組の広がりを背景に、増加傾向で推移している。
- 令和6年産は約4.2万haで、全水稲作付面積(約136万ha)の約3%を占めている。
- 播種方式別にみると、近年は乾田直播の増加がみられ、令和6年産では直播面積の約55%が乾田直播となっている。
- 地域別にみると、東海地域の普及率は約8%と他地域と比較し高い水準にあり、全国の中でも直播栽培が進んでいる地域である。
特に、乾田直播が直播栽培の太宗を占めている。

<全国の水稲直播栽培面積の推移>



資料：農林水産省調べ

<地域別の水稲直播栽培の普及状況(令和6年産)>

単位：ha

	水稲 作付 面積 A	合計 ①	直播面積					普及率 ①/A (%)
			乾田 直播 ②	不耕起 面積	②/① (%)	湛水 直播 ③	③/① (%)	
北 海 道	95,000	6,270	4,547	122	72.5	1,724	27.5	6.6
東 北	358,400	12,784	6,335	1,473	49.6	6,450	50.4	3.6
関 東	262,427	2,215	996	121	45.0	1,219	55.0	0.8
北 陸	197,000	9,480	2,423	997	25.6	6,999	73.8	4.8
東 海	72,200	5,969	5,556	3,211	93.1	413	6.9	8.3
近 畿	93,970	968	152	42	15.7	817	84.3	1.0
中 四	135,810	2,889	2,108	77	72.9	782	27.1	2.1
九 州	143,720	1,080	926	31	85.7	155	14.3	0.8
全国	1,359,126	41,657	23,042	6,074	55.3	18,557	44.5	3.1

注1: 直播面積には、主食用米のほか、飼料用米、WCS用稲に係る面積を含む。

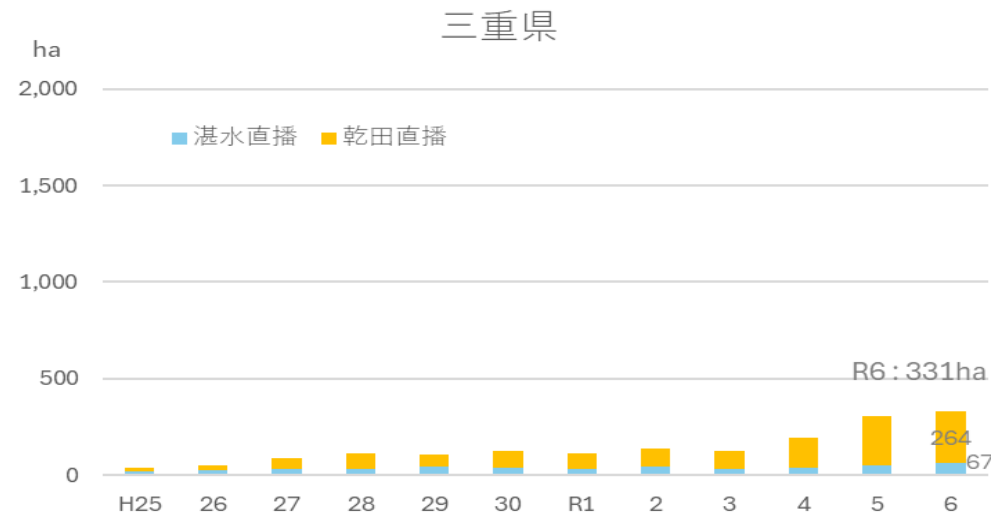
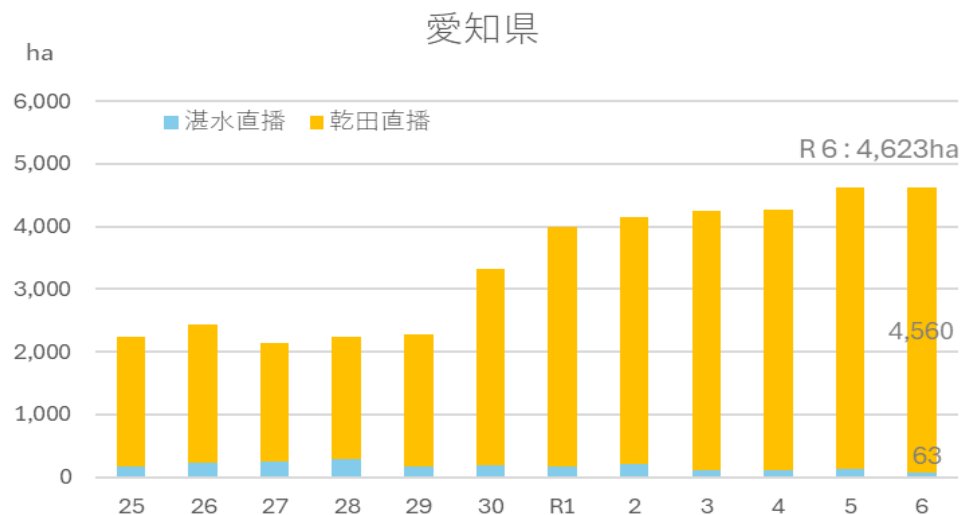
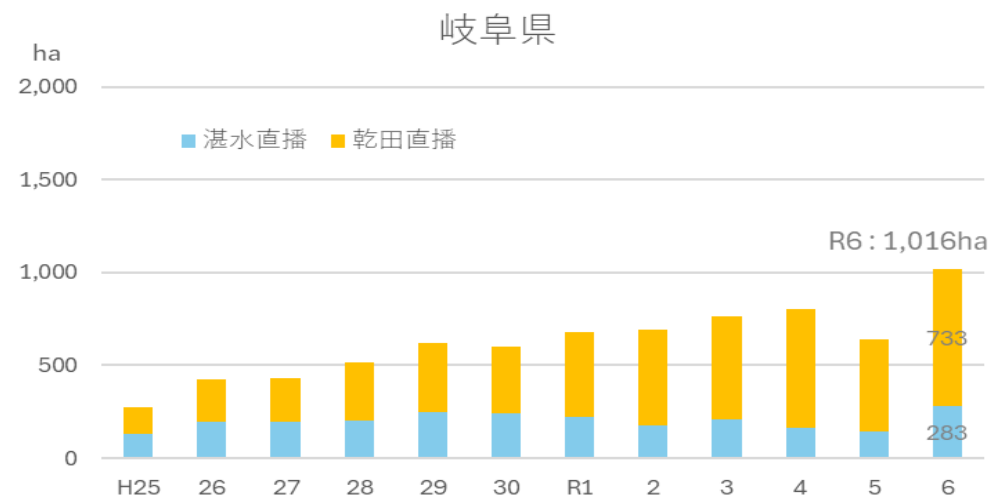
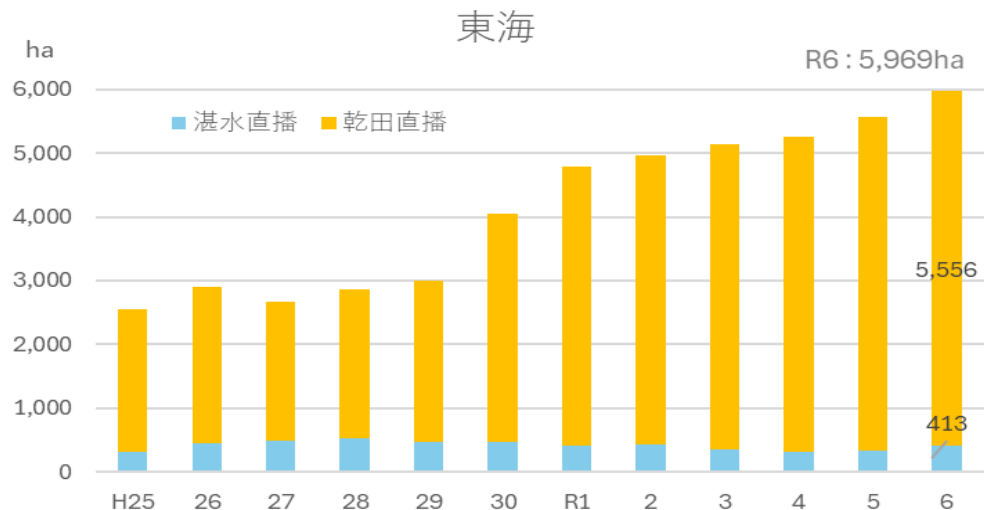
注2: 四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注3: 乾田直播及び湛水直播の内訳面積が一部において確認が不十分であるため、合計面積と一致しない場合がある。

東海地域の水稲直播栽培の普及状況①

- 東海地域の水稲直播栽培面積は、主に愛知県における乾田直播の普及を背景に拡大している。令和6年産では約6千haに達しており、これは過去10年間で概ね2倍以上に増加した水準である。
- 岐阜県及び三重県については、取組面積は相対的に小さいものの、いずれも乾田直播を中心に緩やかな拡大傾向で推移している。

＜東海地域の水稲直播栽培面積の推移＞



東海地域の水稲直播栽培の普及状況②

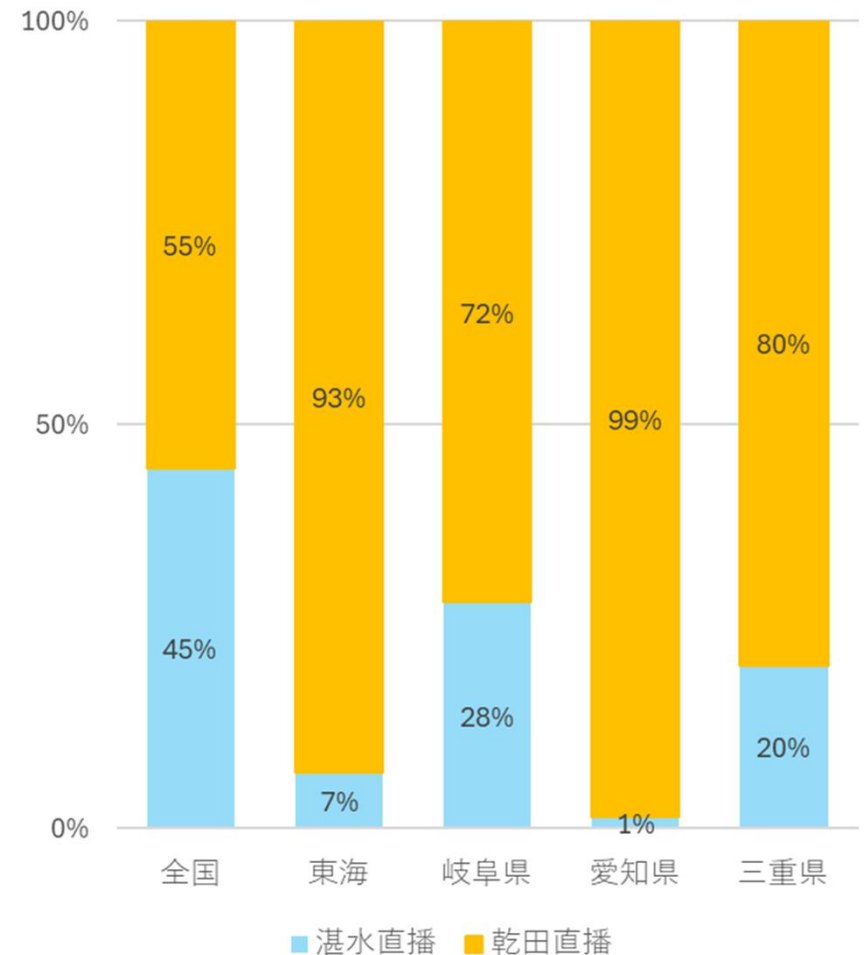
- 東海地域の中でも愛知県は、取組面積が4,623haと全国で2番目に大きく、普及率は約18%と全国で最も高い水準にある。特に、不耕起乾田直播の導入割合が高く、直播面積に占める割合は、全国平均(14.6%)を大きく上回り、東海地域全体では53.7%となっている。
- 全国的には東北・北陸の米主産地を中心に湛水直播の取組が多いのに対し、東海3県では乾田直播を中心とした導入が進んでいる。

＜東海3県の全国における位置(令和6年産)＞

単位:ha、%

道県名	水稲 作付面積 A	直播面積					普及率 ①/A	面積 順位	普及率 順位
		合計 ①	乾田 直播 ②	②/①	湛水 直播 ③	③/①			
北海道	95,000	6,270	4,547	72.5%	1,724	27.49%	6.6%	1	5
愛知	26,200	4,623	4,560	98.6%	63	1.37%	17.6%	2	1
宮城	62,800	4,111	3,081	74.9%	1,030	25.05%	6.5%	3	6
富山	35,000	3,194	1,213	38.0%	1,923	60.21%	9.1%	4	3
福井	23,500	2,738	65	2.4%	2,673	97.64%	11.6%	5	2
山形	60,800	2,466	548	22.2%	1,918	77.77%	4.1%	6	10
新潟	116,200	2,447	508	20.8%	1,939	79.23%	2.1%	7	15
青森	42,400	2,094	1,655	79.1%	439	20.95%	4.9%	8	8
福島	62,700	2,066	400	19.3%	1,666	80.66%	3.3%	9	11
岡山	28,000	2,022	1,872	92.6%	151	7.44%	7.2%	10	4
岐阜	21,100	1,016	733	72.1%	283	27.88%	4.8%	14	9
三重	24,900	331	264	79.9%	67	20.13%	1.3%	21	20

＜直播栽培の県別面積割合(令和6年産)＞



(参考) 東海地域における農協別の水稲直播種栽培の取組状況

- 乾田直播栽培は、岐阜県ではJAぎふ管内(325ha)、愛知県では西三河地域(JAあいち中央、JAあいち三河、JA西三河)(2,008ha)、三重県ではJA鈴鹿、JA津安芸管内(170ha)を中心に導入されており、これらはいずれも農地の集約化が進んだ平地部を主な導入地域としている。
- 一方、湛水直播栽培については、取組面積は限定的であるものの、平地部に加え、一部では中山間地域においても導入事例がみられ、地域条件に応じた活用が行われている。

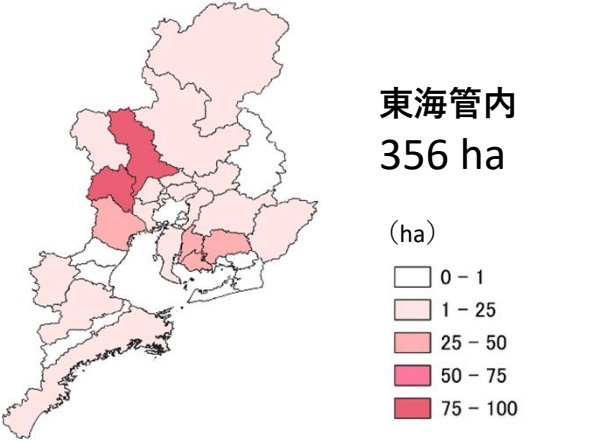
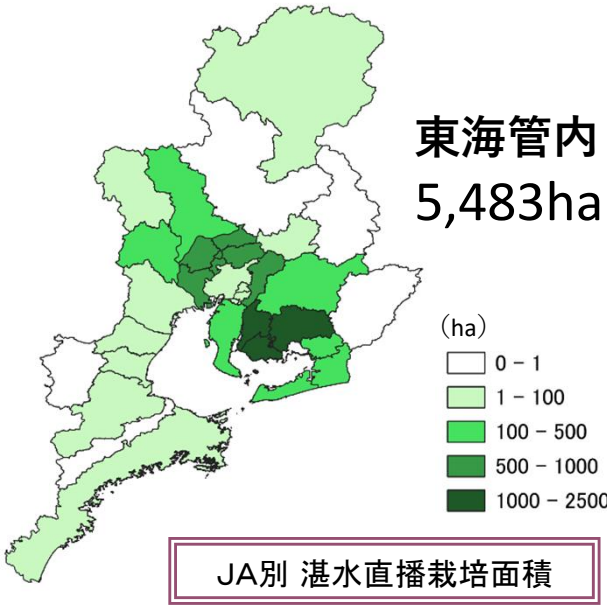
<令和6年産水稲のJA別直播栽培の導入状況>

岐阜県 (ha)		
管轄JA	乾田 直播	湛水 直播
JAぎふ	325.4	91.3
JAにしみの	241.8	85.7
JAいび川	63.3	18.0
JAめぐみの	0.0	10.4
JAとうと	20.7	13.5
JAひがしみの	0.0	0.0
JAひだ	8.0	7.7
合計	659.2	226.6

愛知県 (ha)		
管轄JA	乾田 直播	湛水 直播
JAあいち中央	2,007.8	30.0
JAあいち三河		
JA西三河		
JAあいち海部	834.0	5.0
JAなごや	79.6	0.0
JAあいち尾東	994.0	12.6
JA尾張中央		
JA西春日井		
JA愛知北		
JA愛知西		
JA愛知東	1.0	5.5
JAあいち知多	230.4	5.0
JAひまわり	162.7	0.0
JA豊橋		
JA愛知みなみ		
JAあいち豊田	250.0	5.0
合計	4,559.5	63.1

三重県 (ha)		
管轄JA	乾田 直播	湛水 直播
JAみえきた	40.0	40.0
JA鈴鹿	86.0	0.0
JA津安芸	84.0	0.0
JAみえなか	45.0	12.5
JA多気郡	0.0	0.0
JA伊勢	9.0	1.6
JAいがふるさと	0.0	12.4
合計	264.0	66.5

<JA別 乾田直播栽培面積>



愛知県の直播栽培(不耕起V溝乾田直播栽培)について

愛知県では、平成6年に愛知県農業総合試験場が開発した、作業の分散化と省力化が可能な不耕起V溝直播栽培技術が普及している。令和6年度の愛知県の水稲の乾田直播面積は4,560ha、水稲直播栽培普及率は17.6%であり、ともに全国1位。

麦の収穫や大豆の播種作業と、水稲の春作業が重ならない、2年3作体系に適した技術であること、また、収穫時期が分散するため水稲の移植栽培と組み合わせることで規模拡大が可能な技術として、担い手や大規模経営体を中心に導入が進んでいる。

<特徴>

・播種前にほ場を整地し、V字型の溝に播種と同時に施肥を行う不耕起V溝播種が、担い手や法人経営を中心に広く普及している。

- ・冬期に整地(代かき、耕起鎮圧)することで、春作業の分散化を実現。
- ・冬期代かき又は鎮圧することで湛水後もほ場が十分固いため倒伏しにくく、中干しも不要。

<普及地域>

・西三河地域(安城・西尾・岡崎の平坦部)、尾張西部地域(愛西・稲沢・弥富周辺)など

<共通の農業機械以外に必要な農業機械>

不耕起V溝直播機、乗用管理機(除草)、カルチパツカ(鎮圧機)等

<栽培上の留意事項>

- ・2葉期まで乾田条件で管理するため排水対策が必須。
- ・雑草防除は、出芽前、乾田期、入水直後の3回防除。肥料は、専用に配合された被覆尿素肥料を用いる。



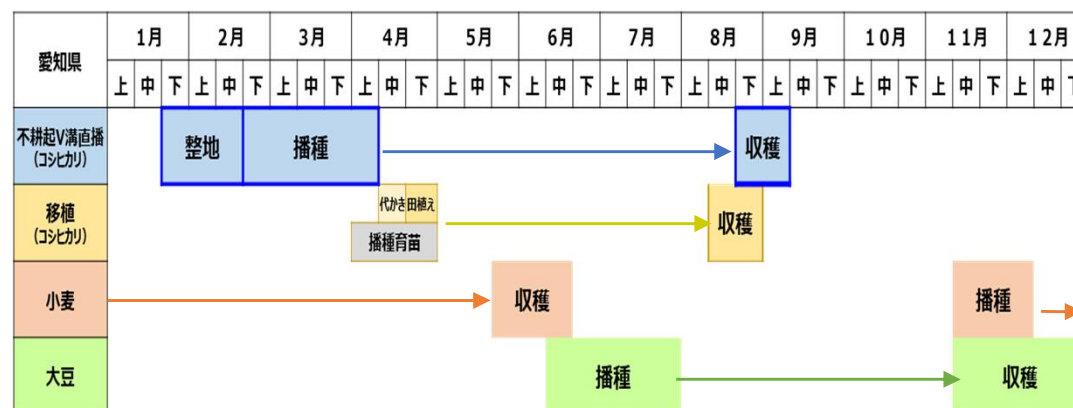
農業総合試験場



【小麦・大豆栽培との作付体系の比較(例:愛知県)】

○東海地域では、水稲一麦一大豆の2年3作のブロックローテーションが定着。

○作付体系は県内でも地域によって異なるものの、不耕起V溝乾田直播栽培は、麦の収穫や大豆の播種作業と、水稲の春作業が重ならず、2年3作体系に適している。

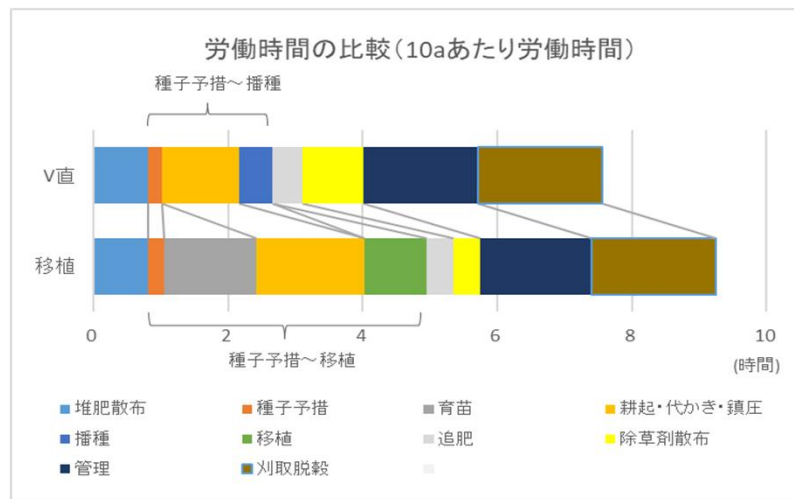


※愛知県の移植栽培では、「コシヒカリ」の後に「あいちのこころ」「あいちのかおりSBL」等を移植。

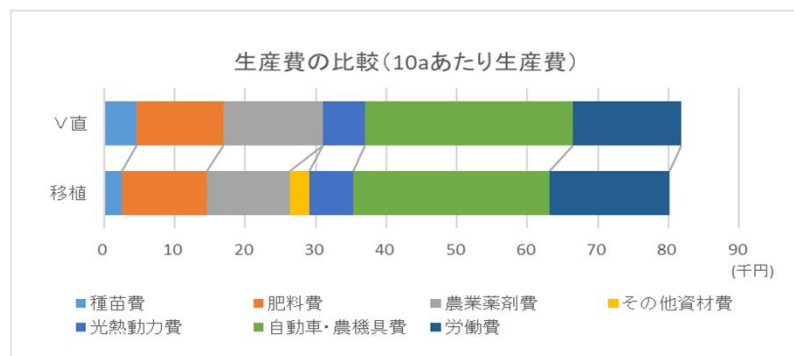
(参考) 水稲＋野菜の複合経営における不耕起V溝直播の導入例

水稲と露地野菜(たまねぎ、ブロッコリー)の複合経営で、水稲は移植栽培のみを行っていた経営体において、水稲に不耕起V溝直播栽培を導入した効果を検証したところ、省力化、育苗～移植作業の軽減と作業の平準化が見られた。

農作業の省力化



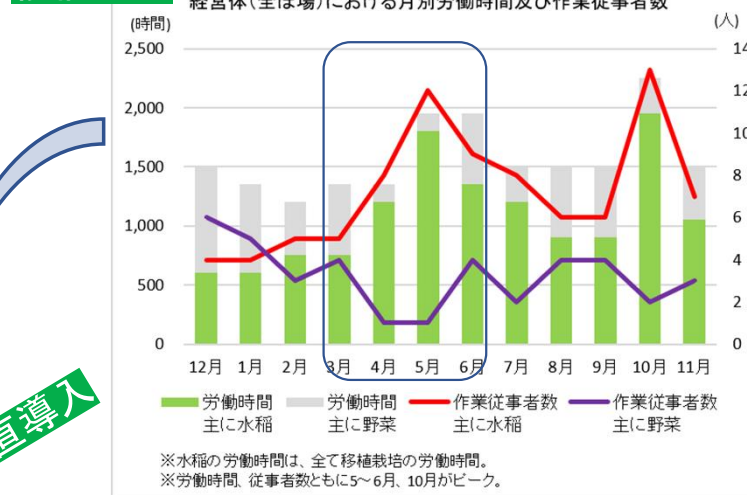
- ・不耕起V溝直播栽培(V直)により労働時間を削減。
- ・特に、種子予措から直播、または移植までの労働時間は、不耕起V溝直播栽培は移植栽培の1/2以下。



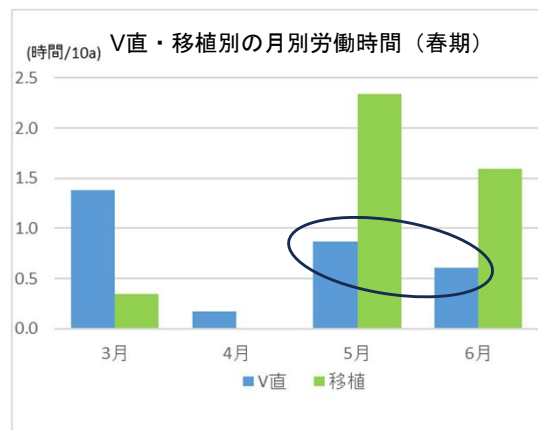
- ・V直では、除草剤など資材費がやや多くなる。
- ・省力化で得られたメリットを最大限に活かし、規模拡大や複合経営に取り組むことが重要。

育苗～移植作業の軽減と作業平準化

移植のみ



V直導入



5～6月の労働時間は、V直は移植の半分以下。
※調査ほ場における調査結果

課題

- ・代かき～田植えの農繁期には、人員確保に苦慮
- ・作業量が多い中、天候要因等により、作業の遅れが生じ、適期作業が行えない。

水稲面積全体に占めるV直の割合を増やす

- ・田植え時期の労働時間削減
- ・全体の労働時間削減

効果

- ・作業の平準化を実現
- ・人手不足の解消と効率的な労働配分が可能
- ・規模拡大や複合経営につながる
- ・水稲に限らず、小麦、野菜等の作付けしている作物についても適期作業が可能

(参考) 東海地域の水稲直播栽培の作付体系

不耕起V溝直播栽培の標準的な作業体系(愛知県・コシヒカリ)

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
直播(V直)													除草 剤散布	除草 剤散布	除草 剤散布															
	整地						播種																							収穫
移植										代か き	田植	除草 剤散布						中干し												
										播種育苗																				収穫

乾田直播・湛水直播に取り組む農業者の作業体系(三重県・伊賀市)

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
直播(乾田) (早生・晩生)		整地			播種					除草 剤散布			除草 剤散布											早生 収穫		晩生 収穫				
直播(湛水) (早生・晩生)						コーティング 作業						代かき	除草剤 散布		中干し						早生 収穫		晩生 収穫							
												播種																		
移植										早生・中生 代かき		晩生 代かき		早生 中干し	晩生 中干し				早生 収穫	中生 収穫	晩生 収穫									
										早生・中生 田植え		晩生 田植え																		
										早生・中生播 種育苗		晩生 播種育苗																		

東海地域の直播栽培の導入事例①

有限会社ハシモト耕販(愛知県稲沢市)

乾田直播(不耕起V溝直播栽培)

冬期鎮圧の後、不耕起V溝直播機により播種

【概要】

- ・ 育苗作業が不要で、1日の播種可能面積が広い。また、収量は移植栽培と同程度を確保している。
- ・ 自動操舵などのスマート農業技術を積極的に導入し、省力化を図っている。

【V直栽培導入の背景】

- ・ 田植え作業の分散を目的として、20年前に導入。当初は総作付面積の約1割から開始し、現在では約9割が不耕起V溝直播栽培となっている。

【直播栽培のポイント】

- ・ 稲沢市では冬期通水がなく、冬期代かきができないため、秋にアッパーロータリーで粗耕し冬期に鎮圧ローラーで地表を固める。バーチカルハローで碎土・均平を行い、冬期に発生した雑草を除去する。

【経営規模・作付体系】

作付面積: 約90ha
V溝直播: 約80ha
V溝直播機2台保有
1台当たり播種面積5ha/日
播種量 5kg/10a



株式会社JA名古屋ファーム(愛知県名古屋市)

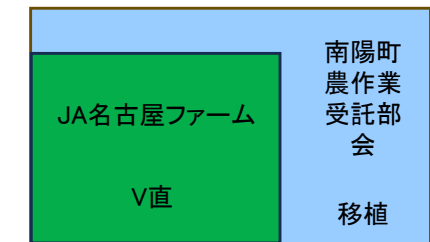
乾田直播(不耕起V溝直播栽培)

地域の直播栽培を一手に受託し、移植栽培を地域の個別経営オペレーターが担うことで、機械装備の負担軽減と機械利用効率を向上

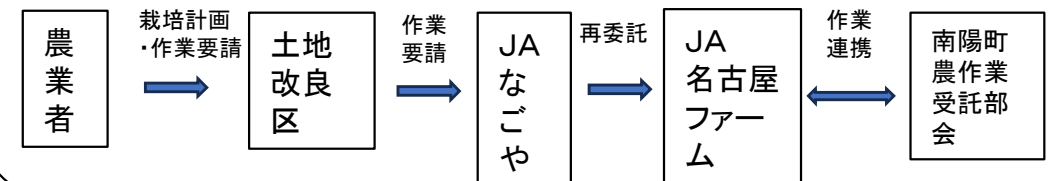
【概要】

- ・ 同社の前身であるJA直営型受託作業部門が平成9年にV直栽培を開始
- ・ 土地改良区が地区毎の栽培計画を取りまとめ、JAなごやに作業委託し、その農地を農地中間管理機構を通じて、地域の中心的担い手の同社が受け手となって作業を行っている。ほ場の集団化を進めるとともに、農作業全般を請け負う形態を確立。
- ・ 同社の経営面積は、名古屋市港区南陽町の総農地面積287haのうちの192ha。
- ・ V直の作業(75ha)は名古屋ファームが一括して実施。田植、稲刈は南陽町農作業受託部会(個人経営のオペレーター)と連携して作業を行っている。
- ・ V直と田植えの作業を分担し、機械装備の負担軽減、機械利用率の向上を図っている。

【南陽町地域の春作業分担イメージ】



【作業受託システム】



東海地域の直播栽培の導入事例②

未来のお米づくり協議会(愛知県西尾市・知多市他)

乾田直播(不耕起V溝直播栽培ほか)

様々な直播方法により播種

【ドローン播種】

- ・ 飛行前に、ほ場外周をGPSで測量することで、アプリが自ら飛行ルートを作成するため、コントローラーによる操縦は不要。
- ・ 播種後、土壌と種子を密着させ、発芽率の向上、鳥害防止の目的で鎮圧を実施。



【スプリットシーダー播種】※

- ・ 麦、大豆との汎用性があるため、ブロックローテーション実施地域では有益。
- ・ 播種機重量が重いため、大型のトラクターが必要。
- ・ 浅播きのため、鳥害を受けやすい。
- ・ 推奨播種速度 2～3km/h程度。

※湿害回避のため、スリップローラーシーダーのローラーを外して使用する播種法。



【不耕起V溝直播】

- ・ 専用播種機が必要。
- ・ 播種後の鎮圧不要。
- ・ スリップシーダーと比較して、播種機重量が軽量であるため、中型のトラクターで作業可能。
- ・ 綺麗にV溝が維持され、覆土されていけば、鳥害はほぼない。
- ・ 推奨播種速度 5～6km/h程度。



合同会社みなみ農園(三重県伊賀市)

乾田直播(耕起耕うん同時播種)・湛水直播

労働力不足、水不足に対して、乾田直播、湛水直播、移植を組み合わせ、作業を最適化

【概要】

- ・ 労働力不足及び水不足という構造的課題に対し、乾田直播、湛水直播及び移植栽培を組み合わせることで、経営の最適化を図っている。
- ・ 併せて、スマート農業技術(自動操舵)を積極的に導入し、省力化を推進している。

【乾田直播栽培導入の背景】

- ・ 農業用水(ため池)の水が枯渇による水不足。
- ・ 移植期の育苗・田植え・草刈り作業等に係る人員不足。
- ・ 規模拡大に伴う育苗ハウス不足を背景として、スリップローラーシーダーを用いた直播栽培を導入。

【直播栽培のポイント】

- ・ 初期の雑草管理。
- ・ ほ場の均平性の確保。

【経営規模・作付体系】

作付面積:約45ha
乾田直播:約3ha
湛水直播:約12～13ha
移植栽培:約30ha



水管理が安定したほ場では、移植栽培を上回る収量達成!

(参考) 乾田直播の主な方式

- 乾田直播は、畑状態で播種し、一定期間後に湛水する直播方法。
- 春の代かきが不要となるため省力化が図れる一方で、漏水が問題となる場合は不適。

● 不耕起V溝乾田直播栽培

播種量目安：
2～3月 8kg/10a
4月 6kg/10a (基本)

・ 技術概要、ポイント

冬期に整地（代かき、耕起鎮圧）することで、春作業の分散化を実現。
完全不耕起と異なり、漏水や雑草繁茂の懸念が少ない。
不耕起とすることで、湛水後もほ場が十分固いため、**中干しが不要**。

・ 共通の農業機械以外に必要な農業機械

不耕起V溝直播機、乗用管理機（除草）、カルチパッカ（鎮圧機）等

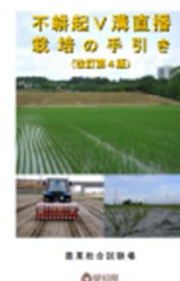
・ 留意事項

稲の2葉期まで乾田条件で管理することが絶対条件。
除草剤は乾田期間2回、入水後1回の3回が基本。
肥料は専用に配合された被覆尿素肥料を用いる。
稚苗移植と比べると労働費は削減できるが、
資材費がやや増加する（種苗費、肥料費、農薬費など）

・ 問合せ先

愛知県農業総合試験場（TEL：0561-41-9517）

（出典）不耕起V溝直播栽培の手引き（改訂第4版）（愛知県）



● プラウ耕鎮圧体系乾田直播【東北地方版】

播種量目安：
7kg/10a程度

・ 技術概要、ポイント

畑作用大型機械とICTの利用により省力、低コスト生産が可能。
移植に必要な耕盤層が不要で排水性が改善されるため、
麦・大豆などの輪作体系に適する。

・ 共通の農業機械以外に必要な農業機械

グレーンドリル（播種機）、スタプルカルチ（チゼルプラウ）、
ケンブリッジローラ（鎮圧機）、レーザーレベラ 等

・ 留意事項

基肥で施用した窒素肥料が流亡しやすい。
→土質にもよるが、施肥量が移植の1.5倍程度となる。
播種後の水入れは、稲の1.5葉期前後に浅水とするのが基本。

・ 問合せ先

農研機構 東北農業研究センター 研究推進部事業化推進室
（TEL：019-643-3498）

（出典）乾田直播栽培体系標準作業手順書－プラウ耕鎮圧体系－「東北地方版」（農研機構）



● 振動ローラ式乾田直播【九州地方版】

播種量目安【北部九州】：
麦播種機 3kg/10a
表層散布機 4kg/10a
部分浅耕播種機 3kg/10a

・ 技術概要、ポイント

振動ローラによる鎮圧により、麦類収穫からの短い切替期間で
高い漏水防止効果を実現。

プラウやグレーンドリルを所有していなくても、播種機と振動ローラで乾田直播が可能。

・ 共通の農業機械以外に必要な農業機械

振動ローラ 等

・ 留意事項

麦踏みローラでは軽すぎて、漏水防止効果が得られない。
地表面5cm程度の土を握って固まらない場合は、
適度な水分状態になってから鎮圧を実施。
スクミングガイの食害回避のため、イネが4葉期になるまでは入水しないようにする。
除草剤は乾田期間2回、入水後1回の3回が基本。

・ 問合せ先

農研機構 九州沖縄農業研究センター 研究推進部事業化推進室
（TEL：096-242-7540）

（出典）乾田直播栽培体系標準作業手順書－振動ローラ式乾田直播－【九州地方版】
（農研機構）



● 畝立て乾田直播

・ 技術概要、ポイント

降雨後の**高水分状態でも播種が可能**であるため、播種時期に降雨が発生するような
地域でも直播ができる。また、表面が硬い台形断面状の播種畝を成形すると同時に畝
の上面に播種することで、**ほ場の漏水防止と生育初期の湿害回避**を図る。

・ 共通の農業機械以外に必要な農業機械

畝立て乾田直播機 等

・ 留意事項

開発機は、農研機構とI-OTA合同会社とによるブラッシュアップを継続中。

・ 問合せ先

農研機構 九州沖縄農業研究センター 広報チーム
（TEL：096-242-7530）

（出典）降雨後の土壌でも適期を逸さず播種できる「畝立て乾田直播機」プレスリリース・広報
（農研機構）

(参考) 湛水直播の主な方式

- 湛水直播は、代かき後の湛水土壌に播種する直播方法。
- 出芽促進を目的とした種もみへの被覆等の処理が必要。

※播種機が共通しているため、他方式への切り替えが可能。

● カルパーコーティング湛水土壌中直播

播種量目安：本州 2～4 kg/10a
北海道 10kg/10a

・技術概要、ポイント

カルパーの成分である過酸化カルシウムが、土壌中で水分と反応して酸素を発生し、種もみの発芽を促進する。湛水直播の基本技術。

・種子、コーティング

状態：催芽種子、資材：過酸化カルシウム粉粒剤（カルパー）
被覆量：1～2倍重、処理後の保存性：常温4日、低温2週間

・共通の農業機械以外に必要な農業機械

催芽器、コーティングマシン 等

・留意事項

落水出芽後の入水が深水になると、根の生育や出葉が抑制され軟弱徒長化する。
覆土が不完全な場合、浮き苗や転び苗の原因となるほか、鳥害も受けやすくなる。

・問合せ先

水稲直播研究会（TEL：03-6379-4534）

（出典）水稲湛水土壌中直播栽培の手引き（2019）（水稲直播研究会）

水稲湛水土壌中直播栽培の手引き



水稲直播研究会

● 鉄コーティング直播

播種量目安：5 kg/10a

・技術概要、ポイント

表面播種であるため、酸素発生剤が不要。
鉄被覆により種もみの比重が大きくなるため、浮き苗リスクを軽減。

・種子、コーティング

状態：活性化種子、資材：微細還元鉄粉・焼石膏・シリカゲル
被覆量：0.2～0.5倍重（要放熱）、処理後の保存性：数か月

・共通の農業機械以外に必要な農業機械

催芽器、コーティングマシン 等

・留意事項

コーティング時に鉄が酸化することで熱を帯びるので放熱が必要。
出芽時に落水を確実に実施すること、適正な農業を本田に散布することで、苗立ち不良の原因となるイネミズゾウムシやスクミリンゴガイ等の対策が重要。
カモの食害が発生する場合は、落水して飛来を回避する必要。

（出典）水稲の鉄コーティング湛水直播（農研機構）

水稲の鉄コーティング湛水直播



（注）湛水・落水処理は落水後に行う。落水中は稲の根が浮き上がる可能性がある。近畿中国地産農研センター

● ベンモリ直播

播種量目安：
暖地3kg/10a、寒冷地4kg/10a

・技術概要、ポイント

ベンガラ（酸化鉄）の被覆により、土中または表面播種での種もみの重量を高め、種もみ付近の還元の進行を穏やかにすることが可能。
モリブデン化合物の被覆により、湛水状態の硫化物を抑制。
事情に応じて、種もみの催芽や播種深度等を変えられる。

・種子、コーティング

状態：催芽種子、資材：ベンガラ・モリブデン化合物・ポリビニルアルコール
被覆量：0.3倍重、処理後の保存性：常温1週間、低温1か月

・共通の農業機械以外に必要な農業機械

催芽器、コーティングマシン 等

・留意事項

ベンモリ被覆は、種もみの発芽・出芽を促進しないので、土中播種（1cm）よりも浅めの播種が良いが、鳥害や倒伏に注意。

・問合せ先

農研機構 九州沖縄農業研究センター 広報チーム（TEL：096-242-7530）

（出典）水稲ベンモリ直播マニュアル（農研機構）

水稲ベンモリ直播マニュアル



農研機構九州沖縄農業研究センター

● リゾケアXL湛水直播栽培

播種量目安【宮城県 ひとめぼれ】：
4～5 kg/10a（乾燥種粒重量で2.7～3.3kg/10a）
※播種量は品種等により調整

・技術概要、ポイント

①過酸化カルシウム、②メタラキシルM、③シアントラニプロールのそれぞれが有効成分である3種類の処理剤と酸化鉄をコーティング済の種子を使用するため、種子処理や被覆等作業が不要。
各有効成分の効果である①酸素供給、②苗腐病の抑制、③イネミズゾウムシ等の防除と酸化鉄の重さにより、安定した出芽・苗立ちを実現。

・種子、コーティング

コーティング等処理済み種子を利用するので、これらの作業は不要。

・共通の農業機械以外に必要な農業機械

コーティングマシン等は不要。

・留意事項

被覆資材の厚みが薄く、種子の表面が平滑であるため、播種量が多くなりやすいことから調整が必要。

土中播種よりやや浅めの播種なので鳥害を受けないよう留意する。
コーティング資材・薬剤と作業コストはメーカー供給の種子代等に含まれる。

（出典）普及に移す技術 第97号（令和3年度）（宮城県）